

## 船舶事故調査報告書

令和元年11月13日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 佐藤 雄二（部会長）  
 委員 田村 兼吉  
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員負傷
発生日時	平成31年1月15日 08時45分ごろ
発生場所	北海道別海町尾岱沼漁港東南東方沖 野付埼灯台から真方位148° 2.7海里（M）付近 （概位 北緯43° 31.6′ 東経145° 22.8′）
事故の概要	漁船やえなみ丸は、操業中、甲板員が落水して負傷した。
事故調査の経過	平成31年1月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 やえなみ丸、4.9トン HK3-123781（漁船登録番号）、個人所有 11.92m（Lr）×3.12m×0.86m、FRP ディーゼル機関、264.6kW、平成13年2月 第200-34396号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和54年5月11日 免許証交付日 平成29年4月27日 （令和5年3月24日まで有効） 甲板員 男性 46歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年6月19日 免許証交付日 平成29年4月27日 （令和4年6月18日まで有効）
死傷者等	軽傷 1人（甲板員）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：波高 約1m、水温 約2℃
事故の経過	本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、ほっき貝桁網漁の目的で、平成31年1月15日06時30分ごろ尾岱沼漁港を出港し、同漁港東南東方7M付近の漁場に到着後、船尾から錨替わりの鉄製桁を海中に投入し、前進して鉄製桁に接続された長さ約200mのワイヤ

ロープを延出して、操業を開始した。

本船は、船長が操舵室で操船に、甲板員が前部甲板右舷側で‘噴流式マンガンと称するステンレス製桁に袋網を取り付けた桁網’（以下「本件桁網」という。）の投入にそれぞれ当たり、3回目の操業を開始した。

甲板員は、本件桁網をブルワーク上に置いて投入しようとしたところ、着用していた固型式救命胴衣の、左開口部に本件桁網の爪が引っ掛かったことに気付いた。（図1～3参照）

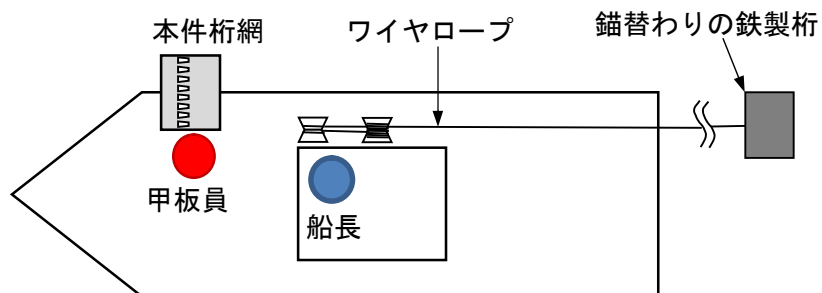


図1 本事故時の乗組員の配置

救命胴衣に引っ掛かった爪



図2 本件桁網



図3 救命胴衣に引っ掛かった爪（拡大）

甲板員は、すぐに爪を外そうとしたが、本件桁網が船体動揺で船外側にずれ、08時45分ごろ、爪が外れないまま本件桁網と共に落水した。

甲板員は、落水後すぐに救命胴衣に引っ掛かっていた本件桁網の爪が外れ、本船付近の海面に浮かんでいたところ、船長の連絡により来援した僚船により救助され、尾岱沼漁港に戻った後、救急車で病院に搬送されて低体温症と診断された。

（付図1 事故発生場所概略図 参照）

その他の事項

甲板員は、本事故時、ほっき貝桁網漁の経験が約27年あり、健康状態は良好であった。

甲板員は、毛糸の帽子、カップの上下、固型式救命胴衣、ゴム手袋及びゴム長靴を着用していた。

甲板員は本事故時、救命胴衣のファスナーを締めていた。

本件桁網のステンレス製桁は、長辺が約168cm、短辺が約130cm、高さが約50cmで、重量は約120kgであった。

甲板員は、本件桁網をブルワーク上に置く際、ふだんから、重心が舷縁上に来るように置いていた。

甲板員は本件桁網の投入時、本件桁網の爪と上半身とが接していたので、本件桁網の爪が救命胴衣の開口部に引っ掛かったと本事故後に思った。

分析

乗組員等の関与  
船体・機関等の関与  
気象・海象等の関与  
判明した事項の解析

あり

なし

なし

本船は、尾岱沼漁港東南東方沖において操業中、甲板員が、本件桁網を海中に投入する際、本件桁網の爪と上半身とが接しており、着用していた救命胴衣の開口部に本件桁網の爪が引っ掛かったことから、本件桁網と共に落水して負傷したものと考えられる。

原因

本事故は、本船が尾岱沼漁港東南東方沖において操業中、甲板員

	<p>が、本件桁網を海中に投入する際、本件桁網の爪と上半身とが接しており、着用していた救命胴衣の開口部に本件桁網の爪が引っ掛かったため、本件桁網と共に落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桁網を投入する際は、できるだけ本件桁網の爪から上半身を離して、救命胴衣等が引っかからないよう注意して投入すること。</li> </ul>

付図1 事故発生場所概略図

